

奈良
国立博物館
だより

平成12年7・8・9月



特別展観

文化財保護法50年記念

国宝 中宮寺菩薩像

東新館

8月8日(火)～8月22日(火)

親と子のギャラリー

お釈迦さま誕生

東新館

9月2日(土)～10月1日(日)

特別出陳

薬師寺 重要文化財 銅造薬師三尊像

西新館

特別出陳

唐招提寺 国宝 木心乾漆薬師如来立像

本館

平常展

仏教美術の名品

本館・西新館

〔写真解説〕

国宝 菩薩半跏像（中宮寺）

日本最古の尼寺の伝統を維持する斑鳩中宮寺の本尊として千三百数十年にわたり尼僧の祈りに護られて来た国宝菩薩半跏像は、飛鳥仏究極の美を示すもので、それは像の側面から背面に至ってはじめて実感することができます。今回の特別展観は国宝菩薩半跏像を初めて全方向から公開展示するものです。

特別展観

文化財保護法50年記念

国宝 中宮寺菩薩像

東新館 8月8日(火)～8月22日(火)

日本最古の尼寺の伝統を維持する中宮寺の本尊として、千三百數十年にわたり尼僧の祈りに護られてきた国宝菩薩半跏像は、世界最古の寄木彫刻であるとともに、飛鳥彫刻の完成された美を示す名作として広く知られています。特にその美しさは柔らかな微笑みと頬に触れる微妙な指先に集約され多くの人々を魅了してきましたが、今では菩薩像の聖らかな横顔を拝観することは普通では難しくなっています。菩薩像は正面性を重視して発達して来た飛鳥彫刻のなかにあって、側面や背面にも完成された造形が実現され、まさに飛鳥彫刻が到達した究極の美を見ることができます。この特別展観は、中宮寺の特別なご協力のもと、菩薩像をはじめて全方向から鑑賞できるように展示するものです。



◎天寿国縹帳（中宮寺）

今年8月は法隆寺金堂壁画の焼損を教訓として文化財保護法が施行されて50年を迎えます。この展覧会はそれを記念するもので、法隆寺と同じく聖徳太子によって建立された中宮寺の国宝本尊像をはじめとする文化財の全貌を公開し、新しい世紀に向けての文化財の伝承についての認識を新たにする機会になればと思います。

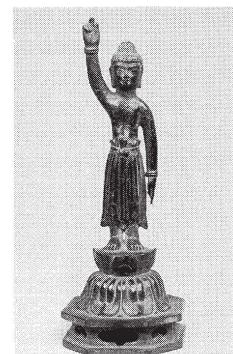
特別陳列 親と子のギャラリー お釈迦さま誕生

東新館 9月2日(土)～10月1日(日)

釈尊の誕生日とされる4月8日には、愛らしいすがたをした誕生仏に甘茶を注ぐ灌仏会（花まつり）が各地のお寺で盛大に行われます。この行事はたいへん長い歴史をもち、わが国には古代以来の誕生仏がたくさんのかっています。また、さまざまな伝説に彩られた誕生前後の物語をあらわした彫刻や絵画も、アジア各地でさかんにつくられました。この展示では釈尊誕生にかかわる名作のかずかずを、わかりやすい解説をつけて陳列します。偉大なる仏教の開祖によせられた人々の尊敬の念を、楽しみながら感じとっていただけだと思います。

【主な出陳品】

石造仏伝図浮彫〈ガンドーラ〉(当館)、◎銅造誕生釈迦仏立像、◎銅造灌仏盤(以上東大寺)、◎銅造誕生釈迦仏立像(正眼寺)、◎銅造誕生釈迦仏立像(悟真寺)[写真]

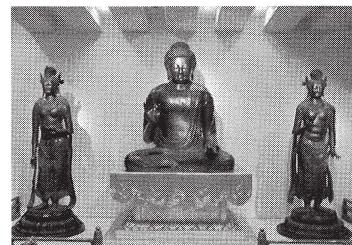


◎誕生釈迦仏立像(悟真寺)

特別出陳 薬師寺 重要文化財 銅造薬師三尊像

西新館

薬師寺には、有名な金堂本尊の薬師三尊像（国宝）のほかに、もう一組の巨大な薬師三尊の銅像が講堂に伝わっています。西新館では、近年完了した修理によって、かつての威容を取り戻したこの三尊像をご覧いただけます。堂々たる古代ブロンズ彫刻の美をぜひ再発見して下さい。

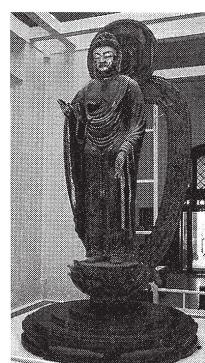


◎薬師三尊像(薬師寺)

特別出陳 唐招提寺 国宝 木心乾漆薬師如来立像

本館

本館中央の第1室に唐招提寺金堂の薬師如来立像（国宝）が展示されています。台座をいれると5メートルを越える姿は、圧倒的な迫力をもっており、奈良時代の仏教美術がもつ雄大さを感じさせます。寺外で公開されるのは今回が初めてであり、本像を四方から鑑賞することができる絶好の機会です。



◎薬師如来立像(唐招提寺)

平常展 仏教美術の名品

本館・西新館

平常展は本館と西新館の二箇所で行われています。本館では飛鳥時代から鎌倉時代にいたる日本の仏教彫刻の名品、その源流であるインドや中国などの彫刻も展示しています。西新館では仏教美術を考古・絵画・書跡・工芸のジャンルに分けて展示しており、本館とあわせて仏教美術の精髓をこころゆくまでご鑑賞いただけます。

特別展観 文化財保護法50年記念 国宝 中宮寺菩薩像 東新館

●菩薩半跏像、●天寿国繡帳、●上宮聖徳法王帝説(知恩院)、旧伽藍地出土瓦、塔心礎出土品、●文殊菩薩像(紙製)、聖徳太子二歳像、絹本著色両界種子曼荼羅、刺繡阿弥陀三尊來迎図、密教法具(金剛盤・五鈷鉢・火舎・六器・飲食器・花瓶・灑水器・塗香器・孔雀文磬)、扁額、信如願文、靈山院年中行事、●瑜伽師地論卷第三十二・第七十六、中宮寺勸進帳、表御殿障壁画(花鳥図襖・吉野龍田図襖)、源氏物語図屏風、後奈良天皇宸翰、後水尾天皇宸翰、後西天皇宸翰、靈元天皇宸翰、慈雲院宮御遺書、慈心院宮懐紙、御調度類(火鉢・襖・鏡台・書見台・色紙箱・硯箱・手拭掛・琵琶・御茶弁当・菓子重)、幡・打數

特別出陳 本館

●木心乾漆藥師如來立像(唐招提寺金堂安置)

特別出陳 西新館

●銅造藥師三尊像(藥師寺講堂安置)

平常展「仏教美術の名品」

本館

第1室 飛鳥～奈良時代の彫刻 ●乾漆舍利弗・目犍連立像、●乾漆緊那羅立像(以上興福寺)、●銅造誕生釈迦仏立像、●銅造灌仏盤(以上東大寺、8/6まで)

第2・3室 平安・鎌倉時代の彫刻 ●木造藥師如來立像(元興寺)、●木造千手觀音立像(園城寺)、●木造十一面觀音立像(勝林寺)、●木造十一面觀音立像(地福寺)、●木造阿彌陀如來立像(裸形阿彌陀)(淨土寺)、●木造增長天立像、●木造多聞天立像(以上当館)、●木造廣目天立像、●木造行賀坐像(以上興福寺)、●木造藥師如來坐像(当館、8/8から)

第4～6室 ガンダーラ・中国・韓国の彫刻 (ガンダーラ) 石造如來立像、石造菩薩立像(以上個人)、(中国)石造如來頭部(雲岡)(個人)、(韓国)銅造如來立像(当館)

第7～13室 日本彫刻の諸相 ●木造十一面觀音立像(海住山寺)、●木造觀音菩薩立像(本山寺)、●木造伎樂面・力士(東大寺)、●同・力士(神童寺)、木造舞樂面・崑崙八仙(当館)、●銅造菩薩立像(金剛寺)、●銅造菩薩半跏像(神野寺)、●木造釈迦如來立像(清涼寺式)(当館)、木造弥勒菩薩立像(林小路町)、●木造十二神將立像(辰・未)(室生寺)、木造如意輪觀音坐像(当館)、●銅造藏王權現立像(大峯山寺)、●木造八幡三神像(藥師寺)[写真]、木造伊豆山權現立像(当館)、●銅造阿彌陀如來立像(善光寺)、●木造增長天立像(称名寺)、●板彫十二神將立像(波夷羅・珊底羅)(興福寺)、●木造地藏・龍樹菩薩坐像(当館)

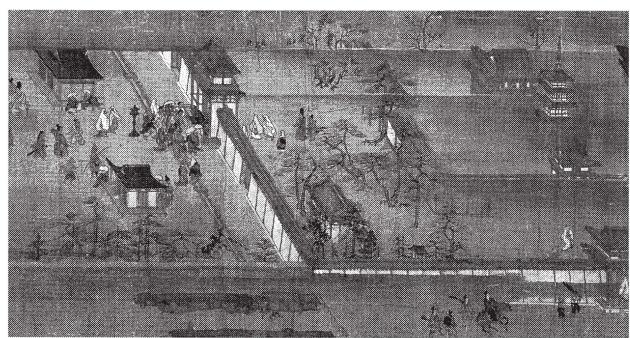
西新館

【絵画】～7/16●釈迦八相図(大福田寺)、●仏涅槃図(正暦寺)、●釈迦三尊像(頬久寺)、普賢十羅刹女像(能満院)、●十六羅漢像(長寿寺)、法華經曼荼羅 第一・二幅(当館)、両界曼荼羅(西大寺)、法華曼荼羅(下部神社)、●一字金輪曼荼羅(当館)、●五大虚空藏像(大覚寺)、●行基菩薩行状絵伝(家原寺)、●善導大師像(知恩寺)、真宗八高僧像(龍上寺)、●法然上人行状絵(奥院)、善惠上人絵(淨橋寺)、●遊行上人絵(光明寺)、7/18～8/6馬頭觀音像(西大寺)、●千手觀音像(金峯山寺)、●千手觀音像、如意輪觀音像(以上当館)、●十一面觀音像(能満院)、楊柳觀音像(円生院)、楊柳觀音像(談山神社)、●華嚴五十五所絵(觀自在菩薩)(東大寺)、●阿彌陀五尊像(一乘寺)、●仏涅槃図 陸信忠筆(当館)、●十六羅漢像(宝嚴寺)、●釈迦三尊十六羅漢図(東大寺)、●釈迦十六羅漢図(家原寺)、●六道絵 等活地獄・衆合地獄(聖衆來迎寺)、●阿彌陀如來像(西教寺)、●阿彌陀四十九化仏來迎図(光明寺)、●當麻曼荼羅(長谷寺)、●一遍聖絵 卷第一・二(清淨光寺・歡喜光寺)[写真] 8/8～9/10●仏涅槃図(長命寺)、●釈迦三尊像、●釈迦五尊十羅刹女像、法華經曼荼羅 第三・四・五幅(以上当館)、●十六羅漢像(宝嚴寺)、●當麻曼荼羅(西教寺)、●觀經十六觀想図(阿彌陀寺)、●當麻曼荼羅縁起(当麻寺)、●阿彌陀三尊來迎図(心蓮社)、●阿彌陀聖衆來迎図(松尾寺)、●阿彌陀聖衆來迎図(迅雲來迎)(西教寺)、●阿彌陀來迎図(宝嚴寺)、二河白道図(藥師寺)、●尊勝曼荼羅、●十二天像(以上当館) 9/12～10/9●仏涅槃図(剣神社)、●十六羅漢像(建仁寺)、法華經曼荼羅 第六・七幅(当館)、●閻魔王図(長泉寺)、●地藏十王図(永源寺)、●十王図 陸仲淵筆(当館)、●阿彌陀聖衆來迎図(阿日寺)、●釈迦阿彌陀發遣來迎図(雲辺寺)、●四聖御影(東大寺)、聖徳太子絵伝(談山神社)、●一遍聖絵 卷第三(清淨光寺・歡喜光寺)

【書跡】～7/16●星尾寺縁起、●高弁夢記(以上高山寺)、●神護寺如法執行問答、神護寺交衆任日次第、諸菩薩求仏本業絵(五月一日絵)(以上当館)、●大般若経(魚養絵)(藥師寺)、紺紙金字法華經卷第七(興聖寺)、紺紙金字法華經卷第七、大般若経卷第百七十四(快円一筆絵)、大般若経卷第四百二(源豪一筆絵)



●僧形八幡像
(八幡三神像のうち)(薬師寺)



●一遍聖絵 卷二(清淨光寺・歡喜光寺)

(以上当館)、般若心経(海住山寺)、版本大般若経卷第三百六十五(当館) 7/18～8/6●門葉記、叡山拝堂記、不動護摩次第、●色紙法華経、●紺紙金字一字宝塔法華経(以上当館)、●一字蓮台法華経(龍興寺)[写真]、●法華經序品(竹生島絵)(宝嚴寺)、●法華経(長谷寺) 8/8～9/10●唐人送別詩並尺牘、●國清寺外求法物目録、●太政官給公驗牒(先本)(以上園城寺)、●大般若経(長屋王願経)(見性庵)、華手経卷第十二(五月一日絵)(当館)、海龍王経(海龍王寺)、●増一阿含経卷第五十(善光朱印絵)(薬師寺)、紺紙金字法華経、法華経卷第二(当館)、●大般若経(七寺)、大般若経(長弓寺) 9/12～10/9●泉涌寺勸縁疏(泉涌寺)、●大福田寺勸進状(大福田寺)、●類秘抄(当館)、瑜伽師地論卷第十六(五月一日絵)(個人)、大般若経(東明寺)、●紺紙金銀交書大般涅槃絵卷第十二(中尊寺絵)(金剛峯寺)、紺紙金字金剛三昧絵(神護寺絵)(当館)、無量義絵(禪林寺)、大般若経卷第百四十七(東大寺八幡絵)(当館)、大般若経(海住山寺)、阿毘達磨品類足論卷第七(足利尊氏願絵)(当館)

【工芸】7/18～8/6●金銅透彫舍利容器(西大寺)、●金銅火焔宝珠形舍利容器(海龍王寺)、●金銅三角五輪塔(浄土寺)、●密教法具(巖島神社)、●蓮唐草蒔絵経箱(当館)[写真]、●孔雀文戔金絵箱(浄土寺)、●金銅透彫経筒(万徳寺)、百万塔及び無垢淨光経陀羅尼、錫杖頭、●宝相華文如意、独鈷杵、三鈷杵、五鈷鉢、塔鉢、(以上当館)、●独鈷鉢、●三鈷鉢(以上個人)、●宝珠鉢(個人)、鏡(円福寺)、孔雀文磬、黒漆磬架、黒漆三脚卓、金銅火舎、金銅花瓶(以上当館)、●金銅透彫華鬘(神照寺)、尾長鳥唐草文華鬘、種子華鬘、龍頭水瓶、(以上当館)、金銅透彫幡(個人)、梵鐘(海住山寺)、●梵鐘(当館)、●桐蒔絵手箱(熊野速玉大社)、ほか正倉院宝物模造 8/8～9/10●黒漆金銅装笈(当館)、黒漆金銅装笈(個人)、蔵王権現鏡像(当館)、男神対向鏡像(当館)、●熊野十二社御正体(個人)、●山王十社本地懸仏(当館)、●入峯斧(当館)、●三鈷劍(鞍馬寺)、●三鈷劍(長谷寺)、●宝相華文如意、手錫杖、錫杖頭三口(当館)、●独鈷鉢、●三鈷鉢、●宝珠鉢(以上個人)、塔鉢、四大明王五鈷鉢、四天王五鈷鉢、種子五鈷鉢(以上当館)、●三昧耶文五鈷鉢(金峯山寺)、宝相華文線刻蓮華形磬(赤松院)、●鉦鼓(東大寺)、●銅鉦鼓(手向山八幡宮)、●銅鰐口(長谷寺)、●金銅琵琶(丹生都比売神社)、●金銅透彫経筒(万徳寺)、百万塔及び無垢淨光経陀羅尼(当館)、●金銅装戒体箱(金剛寺)、ほか正倉院宝物模造 9/12～10/9●刺繡種子阿彌陀三尊像、刺繡阿彌陀三尊來迎図(以上当館)、刺繡六字名号(宝鏡寺)、刺繡種子阿彌陀三尊像(大福田寺)、●繡仏幡(当館)、刺繡阿彌陀如來像、刺繡種子阿彌陀三尊像、●千躰阿彌陀懸仏、●熊野十二社御正体(以上個人)、●山王十社本地懸仏(当館)、●銅造十一面觀音懸仏(長谷寺)、●独鈷鉢、●三鈷鉢、●宝珠鉢(以上個人)、塔鉢、四大明王五鈷鉢、四天王五鈷鉢、種子五鈷鉢(以上当館)、●三昧耶文五鈷鉢(金峯山寺)、金山寺形香炉(長谷寺)、和櫃(高山寺)、公驗唐櫃(当館)、●仏餉鉢(都々古別神社)、ほか正倉院宝物模造

【考古】土偶(山形・杉沢遺跡出土)、深鉢形土器(伝茨城県出土)(以上当館)、銅鐸(妙国寺)、銅鐸(和歌山県日高郡南部川村出土)、北和城南古墳出土品、裝飾付器台付子持壺須恵器、人物線刻裝飾付子持壺須恵器(伝愛媛県北条市出土)(以上当館)、隅木蓋瓦(和歌山・上野廃寺出土)(当館)、●鬼瓦(伝奈良・大安寺出土)(個人)、●東大寺金堂鎮壇具(東大寺)[写真]、●石製弥勒如來坐像(長崎・鉢形嶺経塚出土)、●伝福岡県出土経筒付金銅如來形立像、●伝福岡県出土銅製経筒、滑石製外筒(以上当館)、●藤原道長願絵(奈良・金峯山経塚出土)(金峯神社)、紙本朱書法華経(伝大分県出土)(当館)、●銅板経(大分・長安寺経塚出土)(長安寺)、瓦経(福岡・飯盛山経塚出土)、青石経(愛媛・大日堂経塚出土)、泥塔経(鳥取・智積寺経塚出土)、黄釉褐彩貼花人物文水注、白釉綠彩水注、青磁双耳瓶、青白磁水注、青白磁花唐子文輪花鉢、青白磁花唐子文鉢(以上当館) 7/4～8/6和歌山・粉河経塚出土品、陶製経筒(伝愛媛県北条市出土)(以上当館) 8/8～経塚遺物(伝近畿地方出土)(銅製経筒・陶製外筒断片・鉄製大刀・和鏡・青白磁合子)、紙本墨書法華経(和歌山・粉河経塚出土)(以上当館)



●一字蓮台法華経(龍興寺)



●東大寺金堂鎮壇具(東大寺)

●=国宝 ●=重要文化財 出陳品は都合により一部変更する場合があります。



国宝・唐招提寺金堂薬師如来像の運搬（報告）

唐招提寺金堂の修理工事にともない、堂内安置の三躯の巨像のうち、国宝木心乾漆薬師如来立像を当館にお預かりし、4月4日より本館第1室において展示公開させていただいている。

像本体だけで3.6メートル、台座と光背を入れると6メートル近い巨大な彫像である。このような巨像の運搬に関わるのは初めての経験であった。当然、綿密な計画と最大の注意を必要とすることが予測されたが、時間の制約もあり、反省点が皆無というわけではない。

作品の構造については、大正7～8年に行われた修理時の記録により、ある程度のことは知ることができた。木心乾漆造ではあるが、木心部には空洞部があること。像内から下方へ伸びる長大な丸柄がかかると貫き、さらに蓮華座の中央を通って須弥壇上地付に達しており、これを框の内部で四方から井桁状に組んだ材で固めて像の安定を保持していることなどである。またこの柄は台座内部で太くなり、くわえて補強のため前後に半月形の材を打ちついているため、蓮華から柄を抜くことは無理で、像本体と蓮華および束までを同梱し、反花以下の框座および光背を別梱包することとした。

輸送に先立つ事前調査の際、像内の空洞部はかなり深いことがわかった。いいかえると像の肉厚が薄いということである。このため、実際の輸送を担当してもらった日本通運の作業責任者の発案で、綿やウレタンのほかに割竹を張りめぐらすことによって、吊り上げ時に像にかかる締め付けの力に抗し合うよう工夫することになった。結果的に、この試みはうまくいったと思う。ただ、割竹の長さや張りめぐらす密度は一定ではなく、像表面の形態に応じて、場所によって、より細かに変化をつけることが望ましいだろう。

これほどの大像になると人力では持ち上がらないので、充分に緩衝材を用いて梱包したのち、ナイロン製のロープをかけ、これをまわりに組んだ門型の鉄鋼に取り付けたチェーンブロックで吊り上げるのであるが、このロープをかける場所も問題である。手先や袖先、裳先などの突起部が一番かけやすく、滑って抜ける心配もないのだが、いずれも別材を矧ぎ付けているため強度的に無理があり、まず使えない。今回は像の両足の間を主たる力点とし、さらに表面にナイロン製のネットを張りめぐらせ、これをできるだけ多くの箇所で吊ることにより、力の分散をはかった。

約2週間をかけて像の点検と梱包をおこない、搬出予定日を迎えた。幸い、当日はこれ以上は望みようのない晴天に恵まれた。巨像ゆえに輸送トラックも無蓋車を用いざるをえず、雨であれば自動的に搬出は延期しなければならなかつたところである。

博物館の本館は明治27年（1894）に竣工した国指定の建造物だが、東西の入口には後に取り付けた鉄製の扉がある。今回は東口のこの鉄扉と、さらに付帯するエントランスの北側ガラス扉を一時解体し、ようやく作品を搬入することができた。この搬入作業は手作業とならざるをえなかつたが、最も重く、またもっともかさ高く扱いが困難であったのが、大正7～8年の修理時に新補された框座であったのは皮肉である。

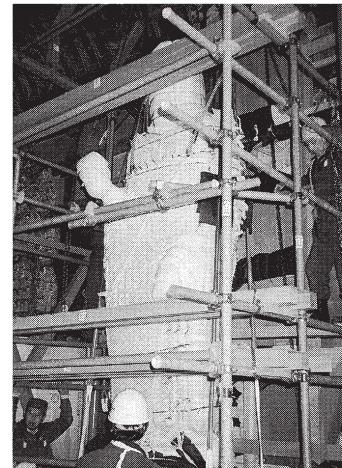
上記の門型を展示室内にも組んで像を立ち上げ、本像のために設置した免震台上に無事安置できた。輸送前の点検時、螺髪のいくつかがゆるみ、脱落の危険のあることが知られたが、幸いひとつ螺髪も外れることがなく、また当然のことだがその他の部位にも損傷はなかつた。

本像が背負う光背は他像からの転用とみられるが、時代的には像本体にほど遠からぬ古いものである。自立することができず、金堂内では光背裏の5ヶ所に打った鉄錆に長い鉄棒を引っかけ、これを堂後壁の建築材に固定していた。今回は像が免震台に乗ったため、光背も免震台に固定する必要が生じ、台上に立てた鉄

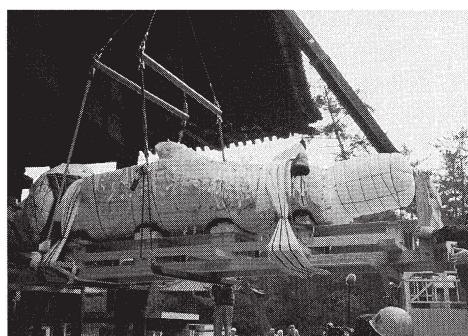
製の支柱に上記の錆を用いて連結することとした。したがつて周囲に組み上げた厨子風の展示ディスプレイは作品とは切り離されている。もちろん、万一の地震時にこれが像の上に崩れ落ちては元も子もない。展示・照明効果を考えて天井部を吹き抜けとしたが、構造的に脆弱とならないよう、長押状の材や欄干等を入れ、強度に配慮したつもりである。

以上、本像運搬の顛末を粗描風に述べてみた。いうまでもなく、唐招提寺当局や、文化庁美術工芸課、奈良県教育委員会ほか関係各位のご指導・ご助力をえてはじめて可能な作業であった。文末ながら記し、貴重な体験をさせていただいたことを感謝したいと思う。

（主任研究官 岩田 茂樹）



像本体の梱包完了



堂外への搬出（像本体）

◆ギャラリートーク 毎月第2水曜日に実施しています。

7月12日(水) 経典を飾る工芸を中心に

工芸室長 内藤 榮

8月9日(水) アジアを結ぶ仏像の道

仏教美術研究室長 松浦正昭

9月13日(水) 古代の博と博仏

企画普及室研究員 高橋照彦

いずれも午後2時より。陳列室にて。入館者の聴講自由。

◆親と子の文化財教室 小学5・6年生と中学生、その保護者を対象にした教室です。

今年度は「鎌倉時代の歴史と美術」(第3クール)をテーマに勉強します。

7月8日(土)鎌倉時代の工芸/9月9日(土)鎌倉時代の絵画/10月14日(土)鎌倉時代の書跡/12月9日(土)現地見学(蓮華王院(三十三間堂))/平成13年1月13日(土)さまざまな塔のかたち/2月10日(土)「鎌倉時代の歴史と美術」のまとめ

ハガキに氏名・住所・郵便番号・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者の氏名・参加を希望する月日(いくつでもかまいません)を記入して申し込んで下さい。参加料は無料ですが、見学料金が必要なことがあります。定員は200名(先着順)です。

◆ボランティアによる解説

ボランティアによる解説を展示室で行っています。

解説は、開館日の10:00～11:00～14:00～15:00～の4回(約30分)と、東大寺や法隆寺など、寺院別の解説6コース(5分～15分)が用意されており、自由に組合わせることができます。予約をすれば講堂または学習室でボランティアが画面に合わせて解説をします。

お問合せは学習普及専門官(電話0742-22-7008)まで。

開館時間 午前9時より午後4時30分まで(入館は午後4時まで)

金曜日は午後8時まで(入館は午後7時30分まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌日が休館。ただし順延あり)
(ただし、中宮寺菩薩像展の期間中は無休)

観覧料金 毎月第2・4土曜日は、小・中学生無料。8月14日(月)・8月15日(火)は無料観覧日

平	大 人	高・大生	小・中生
常	420円	130円	70円
展	210円	70円	40円

※団体は責任者が引率する20名以上。

※特別展観・特別陳列は平常展料金でご覧いただけます。

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の企画普及室にお申し込み下さい。

〒630-8213 奈良市登大路町50 TEL0742-22-7771 FAX0742-26-7218 テレフォンサービス0742-22-3331
ホームページ(URL) <http://www.narahaku.go.jp/>

奈良国立博物館